



# 利根山光人

Toneyama Kojin

第86号 平成27年6月1日

## 記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

### 『遺したい北上の風景画』



早朝や天気の良い日など、珊瑚橋を渡り展勝地まで散歩に出かけますが、春の珊瑚橋を桜並木より眺めるのが大好きで、絵に描いてみました。

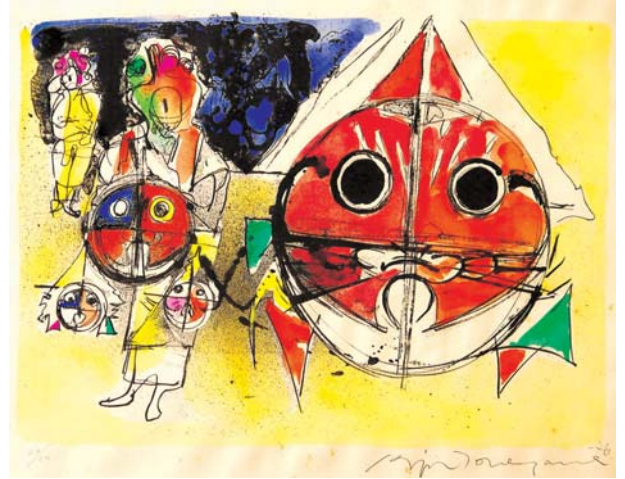
雪や濃霧、花火の時の珊瑚橋、洪水でも頑張っている珊瑚橋・・・。

1908年、立花村の高館徳次郎らの出資により、木製の橋が建設され有料であったそうです。1933年、現在の鉄橋に架け替えられました。橋の名称は国見山の北尾根の珊瑚岳に由来するとされ、北上市のシンボルだと思います。

齋藤 正太郎さん  
(利根山光人記念美術館光の会)

#### —「遺したい北上の風景画」募集—

応募希望の方は、北上市まちづくり部生涯学習文化課 (0197-72-8304) までお問合せください。



金魚ねぶた

### 利根山光人記念美術館企画展開催中 「利根山光人 新所蔵作品展」

前期：平成27年4月1日(水)～6月18日(木)  
後期：平成27年6月20日(土)～8月27日(木)

※6月19日(金)は展示替えのため休館

後期は展示替えをし、彌恵子夫人と桑原イト子様から新たにご寄贈いただいた画伯の作品を展示します。

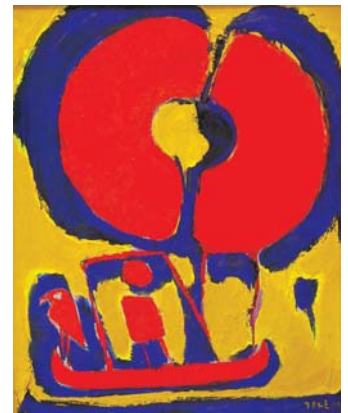
人間の営みの根源的な生命感や躍動感を表現し続けた利根山光人。画伯を魅了したメキシコ、日本の祭、ドン・キホーテシリーズなど、当館初公開となる作品の数々を一堂に展示しています。画伯の生命力みなぎる作品の数々をぜひご覧ください。

### 〈利根山光人画伯のエピソード〉

画家の多くがフランスに留学されている中、利根山画伯はメキシコに行った。片道だけの乗船券を持って貨客船にて数十日かけて渡った。

鯉のぼりをお土産として持っていたが渡航荷物の中にスルメが入っており、その臭いが染み込んでいた。

「日本は素晴らしい。布で出来た魚なのに本物の魚の臭いがある。」と言われ、当時のことを懐かしみながら話された。



船と太陽

トウハラ ヒトシ  
東原 均 (画家 アルテ・トネヤマ講師)

利根山光人画伯、彌恵子夫人が主催するARTETONEYAMA音楽絵画研究所に1984年より参加。現在に至る。

## 「鬼の館」で開催中!



悪魔仮面



トリト

## VIVA MEXICO

～利根山光人コレクション～

平成27年4月25日(土)～7月5日(日)

本展では平成25年、利根山彌恵子夫人からご寄贈いただいた画伯のメキシコ関連コレクションを中心に、北上市立利根山光人記念美術館に収められてる絵画をご紹介します。

「次第にメキシコの古代美術のイマジネーションにひきこまれていったのである。」

利根山光人著『メキシコ曼荼羅』1981より

—北上市立鬼の館—

〒024-0321

岩手県北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197-73-8488 FAX 0197-73-8508

## 「美術館の楽しさ」その4

南の壁面には鹿踊り「律動」が、北の壁面には鹿踊り「原始」がそれぞれ、我こそはと言わんばかりに対座する。「律動」は、比べれば小ぶりの100号であるが、赤と緑、黄色と紫、青と朱色の大胆な色の組合せが絶妙な調和を保ち、躍動感溢れ活力に満ちて居る。群舞する鹿にとって額縁で区切られた世界は窮屈であり、額縁を突き破る力がみなぎっている。「原始」は200号の大作である。こちらは、少々色を抑え広い空間を生かして、2頭の鹿が大胆なポーズで踊って居る。足元は軽やかでユーモラスである。画面の余白が激しい動きを促し、軽快な足元からは清風が沸き立つ。利根山氏の軽妙洒脱な人柄を見る思いがする。

高木 俊士

(利根山光人記念美術館専任研究員)



高木 俊士 画

桜花の座布団の上  
朝陽を楽しむ

## ＝美術館・展示会巡り＝番外編

### パリ旅行の思い出2 バルビゾン村

さあ、憧れたバルビゾン村だ。パリから約50キロの距離を案内者の車で向かった。集落の少し手前の広い畑の所に有名なミレーの看板が立っていた。ミレーが『晩鐘』を描いた所で、遠くに見える教会も絵の中に描かれているとの説明があった。バルビゾンは片田舎の小さい集落という感じの所だった。大きなホテル、スーパーはもちろん無く、野菜や土産物などの各店がこじんまりとあり、ミレーのアトリエや貧しい画家たちを支え続けたガンヌ親父の旅籠(今はバルビゾン派美術館)を回った。バルビゾンの画家は6畳程度の部屋に何人も泊まっていたそう。部屋の壁には落書きがあり、金の無かった当時の画家の生活が心の中を走った。なぜ若い画家たちはこの町に住みついたのだろうか疑問に思う反面、私もここでなら暮らしても疲れなないと思った。ルソーのアトリエの隣の小さな教会は当時のまま残っていて今も利用されており、どこかほんわりした雰囲気楽しく安心できる町だった。心から来てよかったと思った。

高橋 平光

(利根山光人記念美術館専任研究員)



バルビゾン  
高橋 平光 画

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課

〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1 電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121